

<「知るっば!久留米」 令和2年11月12日(木) 12:30~放送分>

久留米絣 ～第2回～ 久留米絣の今(1)

<ゲスト：(公財)久留米絣技術保存会 丸林 禎彦さん>

坂本 MC (以下「坂本」)

「知るっば!久留米」ナビゲーターの坂本豊信です。

11月は、久留米の伝統産業であります『久留米絣』をテーマにお送りしています。

ゲストは、この方です。

ゲスト:丸林 禎彦さん (以下「丸林」)

(公財)久留米絣技術保存会の事務局次長をしております、久留米市文化財保護課の丸林です。

重要無形文化財である久留米絣の伝統的な技術を保存する仕事をしています。

よろしくお願いします。

坂本 丸林さんは、先週に続いて2回目の登場です。よろしくお願いします。

今週は、『久留米絣の今』というテーマでお送りします。

久留米絣というと、どうしても農作業用の服とか、「もんぺ」みたいなイメージがあると思いますが、

最近は色々なスタイルの製品があるようですね?

丸林 そうですね。

特に久留米周辺では、絣が昔からあまりにも身近すぎて、そういうイメージがありますね。

現在は、昔ながらの藍染に「# (いげた)」や「あられ」というようなみなさんがイメージする

従来の絣だけではなく、様々なデザイン、色合い、価格のものが流通しています。

それに、洋服や小物など様々な製品展開がされています。

「もんぺ」も昔ながらのデザインだけではなく、現代のファッションにマッチするようなモダンな

デザインも多くなり、今、静かなブームが到来中です。

私も持っていますけど、とても楽でそのまま街に出ても大丈夫なデザインでいいですよ。

坂本 洋服とかシャツと一緒に「もんぺ」ですか?

丸林 そうですね。Tシャツに「もんぺ」を合わせるとかですね。

坂本 いいですね。ファッションブルな感じですね。

各方面からの評価も高くなっていると聞きますけど、いかがですか?

丸林 そうですね。久留米絣は、どちらかというと、地元よりも東京や大阪といった大都市圏での評価が高く、わざわざ好みの柄を探しに久留米を訪れる方もいらっしゃいます。
最近では、SNSの普及により海外での絣人気も高まってきているようで、絣の工房を訪ねて来日する方もしばしばいらっしゃいます。
特に、西欧の方の目には、日本の藍染めのブルーがとても神秘的に映るようです。
また、絣の柔らかい自然な線や柄が好まれるようですね。

坂本 海外の方にも人気なんですね。
久留米絣技術保存会として、絣の伝統的な技の保存に取り組まれているということですが、今、最大の課題は何でしょうか？

丸林 昔から久留米は、備後、伊予とともに日本3大絣生産地のひとつとされてきました。
そして、この3か所の中で唯一産業として現在まで生産を維持してきた久留米絣ですが、昭和30年代には年間100万反を超えていた生産量が、約10年前には8万反に減少しており、近年はさらに減少しています。
久留米絣がこれまで産業として維持できてきた要因は、品質の高さや製品の美しさはもとより、国の重要無形文化財としての伝統的な技術を保存し、良好なブランドイメージを構築してきたからでしょう。
そして、機械織りにより久留米絣が求めやすい価格帯で、工夫を凝らしたデザインや色など、新しい取り組みを続けてきたからです。

坂本 やはり、多くの関係者の様々な工夫や取り組みが久留米絣を残し、そして、絣の伝統的な技術を未来に伝えているということですよね？
本当に頭が下がります。

丸林 しかし、現代の化学繊維による衣料全盛の時代の中で、天然の綿織物であり製作に時間と手間のかかる久留米絣は、どうしても生産コストが高く、販売価格も割高にならざるを得ません。
販売量が減っていくと生産量も減り、次世代を担う後継者も育ちにくくなっていきます。

坂本 天然の綿は、やっぱり肌触りがよくて気持ちがいいので、ぜひ残してほしいと思います。

丸林 伝統的な久留米絣が将来にわたって伝承されていくためには、後継者をどのように育成していくかが大きな課題です。
これは手織りだけではなく、機械織りの絣にも言えることですが、技術の習得には長い時間と経験が必要です。
絣の生産を続けていこうとする後継者たちが、明るい将来を思い描くことができるような環境づくりが必要だと思います。

坂本 後継者問題というのは、どの伝統産業にも共通の課題なのではないでしょうか？

丸林 はい、それが最大の課題ですね。

坂本 丸林さんは、そういった後継者のみなさんが、将来の夢を持って伝統産業を継承できるよう手助けをされているのですね。

私も久留米絣は、大きな魅力を持っていると思います。

改めまして、久留米絣の魅力についてお聞かせください。

丸林 私も、今の絣の保存に関わる前は、まったく絣に興味がありませんでした。

しかし、多くの職人さんと話をし、久留米絣の複雑な生産工程を知るにつれて徐々に興味が湧き、たくさんの絣製品を見ることによって、ますます絣の世界に引き込まれました。

私が思う絣の魅力は、江戸時代からこの久留米を中心とした地域に伝わる伝統的な技術が、この令和の時代にそのまま生きているということですね。

そして、絣の糸の1本1本に伝統の技術が込められているということです。

久留米絣は、先に糸を染めるので、同じ柄であってもひとつとして同じものではなくて、

全てが一点物であるということだと思います。

坂本 久留米絣の魅力は、伝統的な技が継承されており、作り手が心を込めてひとつひとつ作られていることなのでしょうね。

丸林さん、今週も興味深いお話をありがとうございました。

絣の魅力を多くの人に知ってもらいたいと思います。

久留米絣に関する質問やお問い合わせについては、

歴史・重要無形文化財の伝統的な技術に関することは、久留米市役所本庁舎12階

久留米市文化財保護課内にある(公財)久留米絣技術保存会までお願いします。

電話番号は、0942-30-9322です。

また、久留米絣の販売など全般的なことにつきましては、地場産くろめにあります

久留米絣協同組合までお願いします。

電話番号は、0942-44-3701です。

次回は、実際に絣を製作しておられる、重要無形文化財久留米絣技術伝承者の柿原真木子さんにお話を聞きたいと思います。